

日曜日の東京に、久しぶりの雪が降った日の一枚です。雪国では積雪 5cm 程度は「うっすら積もった」くらいの感覚ですが、東京ではそれだけで交通も生活も一気に雪景色モードになります。普段は見慣れた交差点や街路樹が、雪の粒に包まれるだけで別世界のように感じられます。

この写真では、降雪がより「大雪」に見えるように撮影しています。ポイントは望遠気味にして、空間の中にある雪粒をできるだけ多く画面に収めることです。広角で撮ると雪は点にしか見えませんが、望遠にすると雪粒が密集して写り、降り方の激しさが強調されます。さらに、交差点名の標識が雪で霞むように写ると、視界が悪いほどの降雪に見え、冬の迫力が伝わります。

とはいっても東京の雪は、ほとんどの場合その日か翌日にはすべて融けてしまいます。雪かきをしなくても自然に消えていくことが多いです。しかし雪が珍しい東京では、つい無意味に雪を一か所に集めてしまう人が少なくありません。ところが集められた雪は日陰に残りやすく、何日も融けずに再度凍結してしまい、かえって歩行者や車にとって危険になります。東京では「無駄な雪かきはしない」という判断も、実は合理的なのです。

(2026年2月上旬／文京区小石川)

